

月刊 やちまなこ

2025.11.15 発行

No.336

11 月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



オジロワシ [*Haliaeetus albicilla*]

釧路湿原にも霜が下りる季節となった。朝の光を受けて、成鳥と幼鳥のオジロワシが空で絡み合う。白い尾を広げた親鳥に、まだ褐色の若鳥が挑みかかる。互いに爪を交え、風を裂き、空に円を描く。その動きは争いにも見え、また教えのようにも見えた。冬を前に、空には力と命の継承が描かれている。

今月の巻頭を飾るのは、その一瞬。氷点下の空気の中で繰り広げられた命の舞。オジロワシは国の天然記念物として保護されており、釧路湿原では通年見られるが、冬になると北から渡ってきた個体も加わり、その姿をより多く目にするようになる。風雪に磨かれた翼が描く軌跡は、この地の自然が持つ逞しさと静かな緊張を映している。



塘路フィールドノート【10/15～11/14】

【野鳥】

夏鳥が去り、空にはヒシクイやハクチョウの群れが見られる季節となった。本格的な冬鳥の季節の始まりである。



エゾビタキ（塘路原野）

北海道では少し珍しい旅鳥。大雨覆先端と三列風切外縁に白い縁取りが目立つ。ヒタキ科



クマゲラ（塘路湖畔）

今年は多く見掛けた。飛翔時の「ギリギリギリ」と「キョーン〜ッ」という声を追うと出会い易い。キツツキ科



カワウ（塘路湖）

晩秋になると大群で釧路湿原にやってくる。センターの対岸の岬に100羽近くが集まっていた。ウ科



オオハクチョウ（塘路原野）

今年は4羽に始まり、少しずつ渡りが増えてきた。晩秋の訪れを知らせる水鳥。カモ科



ヤマシギ（塘路原野）

日没の頃、林道に降り立っている個体を見かける。オオジシギよりもやや大きい。シギ科



オオワシ（シラルトロ湖）

今季の初確認は11月7日。本格的な寒さがくることを告げる猛禽のひとつ。タカ科



カケス（塘路湖）

亜種ミヤマカケス。留鳥だが秋から冬にかけては餌を求めて人里近くにも姿を見せる。カラス科



ヤマセミ（塘路湖）

夏鳥だが今年は長期間に亘って確認。2羽で追いかけっこをしていた。カワセミ科

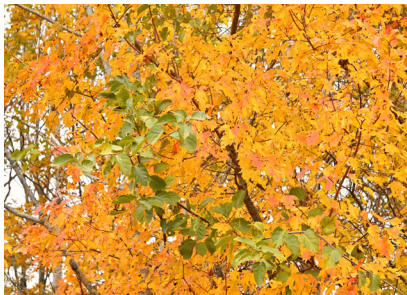


オオバン（塘路湖）

8羽の群れで、エゾノミズタデを好んで食べていた。秋以降によく見掛ける。カモ科

【植物・菌類】

今年の紅葉は短かった印象。結実が悪く、サルナシやドングリも疎らであった。ヤマブドウも実のつてはいるものの全体には少なかった。秋のキノコは猛暑の影響で出遅れ、あっという間に終わってしまった。



カラコギカエデ（鹿子木楓）

晩秋は紫がかった濃い紅葉をするが、初期は透明感のある黄色葉が美しい。カエデ科



イヌホウズキ（犬酸漿）

紅葉の時期になり漸く色付いた結実。茄子やトマトに似た食べられない黒い実が付く。ナス科



アキタブキ（秋田路）

春に頭を出す路の蔓だが、晩秋には既に来春に向けた準備を始めている。このまま春を待つのかな？キク科



ニシキギ結実（錦木）

紅葉の少し前に綺麗な紅い実をつける。毎年センターの裏が紅葉で賑わう。ニシキギ科



アシボソクリタケ（足細栗茸）

枯株の内側から生えていた。傘は椎茸に似た綿毛に覆われ柄が細長い。モエギタケ科



ハナイグチ（花猪口）

俗名：ラクヨウキノコ。今年は10月中旬に出たが、数はまばらだった。イグチ科

【哺乳類・昆虫】

今年は山の結実が凶作で、センターにもヒグマの目撃情報が寄せられた。エゾシカは特に退避せずに近場で草を食んでいたので通っただけかもしれない。晩秋の蛾はタマゴを産んで一生を終えた。



エゾシカ（二本松）

繁殖期に入り、山では犬の遠吠えのような声が木霊する。森に入るのが不気味な季節。シカ科



シマリス（阿歴内）

人の気配に驚いたのか、樹上に登って威嚇してきた。そろそろ越冬に入る季節。リス科



ヒメヤママユ（釧路湿原）

晩秋に1度だけ発生する蛾の仲間。成虫は後食しないため口吻は退化して無い。ヤママユガ科

◎ 晩秋の湿原 野観察会を開催しました

10月18日(土)は、晩秋のシラルトロ湖畔で野鳥観察会を開催しました！

渡り鳥の中継地である釧路湿原の役割を学びながら、オジロワシやカモ類、タンチョウなどたくさんの鳥たちに出会えました。

講師の解説を聞きながら、まずは可愛いエゾリスがお出迎え。ハシブトガラやゴジュウカラなどの留鳥を観察し、湖面にはマガモやコガモ、カワアイサなどカモ類の群れがゆったりと浮かんでいました。上空にはオジロワシの成鳥と幼鳥が旋回する大迫力の光景も！そして、湖畔に降りるとカワウの圧倒的な大群にみんなびっくり。

遠くの岸にはタンチョウ2羽の美しい姿も確認できました。羽根の特徴から鳥の種を識別する解説もあり、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。
確認種 26種類 参加者 8名



観察風景 (オジロワシ・ユリカモメ)



カモ類の集団

12月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

小麦粉粘土で楽しもう

〔日 時〕 12月13日(土) 13時～15時
〔定 員・参加料〕 15名 550円(材料費)
〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

◎問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原の「かたち」を見て歩こう

〔日 時〕 12月7日(日) 10時～12時
〔定 員・参加料〕 15名 無料
〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 10/15(5:36,16:41). 10/31(5:56,16:16).11/14(6:14,16:00)

～ 指導員のひとり言 ～

■総合振興局の木の実の豊凶調査によると、今年度はドングリなどの結実が少なく、食べるものを求めて人里に降りるヒグマが多く報告されているようです。その影響もあってか7月には道南福島町で痛ましい人身事故が発生してしまいました。被害に遭われた方には、心よりご冥福をお祈り致します。ヒグマに遭わないためには、森に入る際は単独を避け、熊鈴を鳴らしたり声をあげたりして、急な遭遇を避け、互いに驚かせない距離を保つことが大切です。

11月からは当館の閉館時間が1時間短くなっています。お立ち寄りの際はお気をつけください。日暮れが早まる季節、皆さま、どうぞ安全に自然と向き合ってください。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

インスタグラム [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料